

吉野川で漁獲されたカラチョウザメについて

環境増養殖担当 西岡 智哉

Key word 吉野川, 第十堰, チョウザメ, 延縄, *Acipenser sinensis*



写真 1. 平成 24 年 8 月 21 日に吉野川第一漁協組合員により捕獲されたカラチョウザメの全体写真(全長 81cm, 体重 2.8kg)。吉野川第十堰下流 300m において, ウナギ延縄で漁獲された。

吉野川でチョウザメが捕れた！

平成 24 年 8 月 21 日, 吉野川第一漁協加藤弘光組合長が水産研究所鳴門庁舎に来所し, 「吉野川に仕掛けた延縄に見たことのない魚が掛かった」ということで, 魚を持ち込んで来られました。一見して, 卵がキャビアとして有名なチョウザメの仲間である事はわかりましたが, 種までは特定できませんでした。早速, 図鑑(阿部, 1987)で調べたところ, 背側のウロコが 13 枚であること, 体側のウロコが 45 枚であること, 腹面のウロコが 11 枚であることなどがカラチョウザメ *Acipenser sinensis* と一致しました。さらに, 背鰭や尾鰭の形が, 図鑑の挿絵の特徴をよく備えていることから, カラチョウザメと同定しました。

カラチョウザメの和名の「カラ(唐)」, 学名の「*sinensis* (ラテン語で中国を意味する「sina」+産地を意味する語尾「ensis)」からわかるように, 同種は長江や東シナ海などの中国近海に生息しています。大きなものでは体長が 3.2m, 体重が 560kg に達し, 40 歳にもなる個体が確認されていますので(稲田ら, 1998), 今回捕れた個体は比較的小さな個体であるといえます。

カラチョウザメは何故捕れた？

カラチョウザメは主に中国近海に分布しており, 徳島県では捕れた事例がないことから, はじめは飼育されていた個体が逃げ出したのではないかと考えていました。しかし, 別の図鑑(細谷, 2000)を当たってみると, 過去に東京湾, 相模湾, 九州西部などで確認された記録があります。このことから, 稀ではありますが, 日本まで迷い込んだ個体が漁獲されることがあるようです。今回のカラチョウザメは, 稚魚として海流に運ばれて吉野川までやってきて河口域で成長した, あるいは, このサイズで回遊してきたかのいずれかの可能性が考えられます。

カラチョウザメが日本で確認された例は稀ですが, 元々の分布域の中国においても数を減らしており, 稀少なものとなっているようです。そのため, 中国では, 本種を人工繁殖させ, 放流に取り組

んでいるようです。このような魚が、はるか離れた徳島県で捕れたことは貴重な事例であり、本稿を書くことで記録として残したいと思います。

最後に、今回カラチョウザメを持ち込んでくださった吉野川第一漁協加藤弘光組合長、および同種の分布やこれまでの記録についてご助言下さった北海道大学大学院水産科学研究院の今村央准教授にお礼申し上げます。

参考文献

阿部宗明, 1987, ちょうざめ目ちょうざめ科. 原色魚類大図鑑. 北隆館, 61-63.

稲田伊史, 山田梅芳, 1998, 西水研玄関に展示されている「チョウザメ」標本. 西海水研ニュース(93), 3-8.

細谷和海, 2000, チョウザメ目チョウザメ科. 中坊徹次編, 日本産魚類検索. 東海大学出版会, 187.

(環境増養殖担当 西岡 智哉)